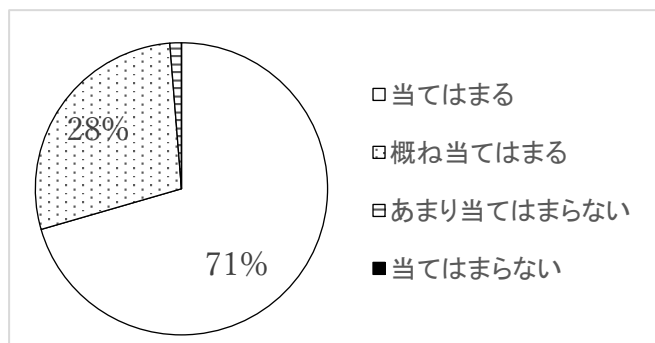
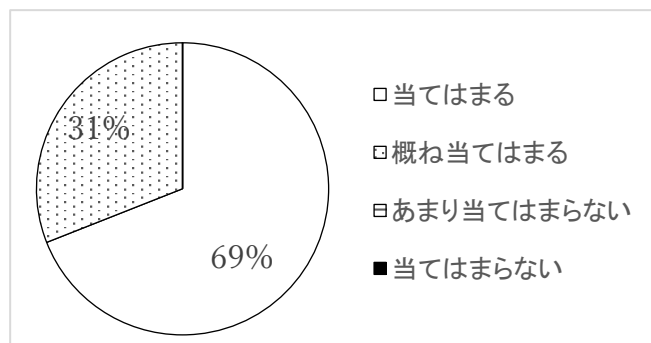


1. 分科会は課題解決に向けて参考になるものでしたか？



2. ブレイクアウトルームでの協議は有意義でしたか？



《分科会についてのご意見・ご感想》 ●課題

○魅力ある教頭とはどんな教頭か、多くの先生方のご意見や講師の先生のご講話より深く考えることができました。また、新しい生活様式における働き方改革については、まずは職員の意識改革が大切であることを再認識できました。実りのある研修ができました。

○「教師であり教師を超えたところにいる」という言葉が印象に残っています。働き方改革について分析していただいたことを具体化していきたいと強く思いました。健康に気を付けて肩肘張らずに頑張ります。安原教授の講義及び他県の学校の実情や取り組みについて情報共有ができ、大変勉強になりました。子供にとって、家庭・地域にとって、そして何より職員にとって魅力ある学校を目指しつつ、本日の分科会を通して学んだことを生かし、職員と共に「学校の新しい生活様式における働き方改革」を進めていきます。

○現地に行けないことは残念だったが、オンラインでも大会が成立することが分かった。佐賀の皆様、本当に有り難うございました。午前・午後でブレイクアウトルームの組み替えがあってもよいかと思った。参集型だとグループの変更はなかなか難しいが、ブレイクアウトルームだと可能かなと思った。

○実際に集まって語り合う良さ、リモートで気軽に手軽に話し合う良さどちらもいいものだなあと感じました。来年は東北の地である岩手大会ですが、参加者の needs や want によって選択できるような会でもいいと感じました。佐賀県の皆様大変お疲れ様でした。

○上手くグループ協議ができるか心配しましたが、通信状況も問題なく、皆さん、和やかな雰囲気でした。話し合うことができました。本来だったら佐賀の地でこの後、飲みに行きましょう！となるくらい皆さんと交流できました。安原先生の講演も途中でグループの時間を挟んで頂き、オンラインということのを忘れるくらい自然に話し合うことができました。この分科会の在り方はとても良かったと思います。

○全国の教頭先生方とお話できたことが、とても有意義でした。場所は違っていても、抱えている問題は一緒で、共にならなう感じました。それから、学校の再定義として、教育のわくわくする未来を教職員と共に語りながら、教職員は子どもたちに夢見る未来の希望を語る存在でありたいと感じました。

○全国各地の先生方から、その自治体や学校、地域や子供に応じた話を聞くことができ、大変勉強になりました。講師の安原先生からの、needs と wants の視点で考えると良いということが参考になりました。佐賀県の教頭会の先生方、全公教の役員、事務局の先生方、このような状況の中、全国大会を開催して頂き本当に有り難うございました。

○多くの教頭先生方と意見交流ができたことは、とても意義あることだと思います。このような場を設定していただいた佐賀県教頭会の皆様に感謝申し上げます。コロナ禍、GIGA スクール構想等で大変な時期、働き方改革も進めなくてはならない状況ですが、この研修会の内容を生かしていきたいと思ひます。

○地域の異なる学校が集まったことで、多面的な見方から分科会に臨むことができました。意見の交換から新たな考えが浮かんだ面、示唆を頂いた面等々有意義なものでした。また、オンライン開催でどんな協議会になるのか不安と興味がありましたが、対面と変わらない開催だったとびっくりしています。

○働き方改革を進めるうえで ICT の利活用が重要なカギを握ることが再確認できました。本質を外さないようスリム化を進めていきたいと思ひます。

●オンラインでの開催も可能ということが分かりましたが、やはり実際に会って話す機会と併用しながらできるとさらに良いと思ひました。実行委員の先生方有り難うございました。

●オンラインということでなかなか深い意見交換まではできなかったが、それでも、実施できてよかったと思ひます。司会・記録の担当の方有り難うございました。

●慣れればオンラインでも「出し合い」は成立する。しかし、「協議」にまで発展させるには難しかった。疲れさまでした。